2022.7.17　年間第 16 主日

マルタとマリア

ルカによる福音書　10:38-42

（そのとき、）イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

説教

福音書は肝心ところというか、一番知りたいところになると「書いていない」ことがあります。

マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。ルカ 10:39b

いったいマリアは主の足もとで、イエスが語るどんな話に聞き入っていたのでしょうか。はなしの中味を知りたいとおもいませんか。

いままでわたしはマリアは何人かの弟子と一緒にイエスの話（たとえば山上の説教の一部とか）を聞いていたのだと思い込んでいました。でも、マリアが足元に座ってそのまわりを弟子たちが囲んで聞いているのも不自然です。このときマリアだけに話をしているとすると･･･

主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。ルカ 10:40

ここで姉のマルタは妹が怠け者で困るということをイエスに詰め寄っているのでしょうか。マルタがイエスとマリアの間に割ってはいった理由はほかに

あるかもしれません。
「マルタとマリア」の話はきょう朗読したルカ福音書 10 章と、もうひとつはヨハネ福音書の 11 章、12 章にでてきます。
　11 章：彼女たちの兄ラザロの死と蘇りの話
　12 章：過越祭の一週間前に妹マリアがイエスに香油を塗る話
イエスとマリアの話のなかみがいままで秘密にされていたイエスの受難だとしたらどうでしょう。マルタはびっくりしてイエスに詰め寄ってなんかいうでしょう。
受難予告を聞いたペテロの反応はマルコ福音書ではこうなっています。

> **ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。**マルコ 8:32b

そしてこの意見をいったこと、いさめたことでイエスに厳しく叱られました。

> **ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」**マルコ 8:33

ルカ 10 章でマルタは「手伝ってくれるようにおっしゃってください。」とイエスに文句をいいます。イエスはペテロのときは叱りましたが、マルタにはこうやさしく諭しました。

> **主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」**10:41-42

聖書の文面ではマルタの「思い悩み、心乱れ」はマリアが台所仕事を手伝わないからと読めますが、そんなことでイエスがマルタを叱りはしないでしょう。だからこう想像してみます。
イエスはマリアに受難予告をし、その後の指示をマリアにした、つまり香油を塗ること、処刑時に立ち会うこと、埋葬のこと、三日後の復活のことをマリアに伝えていた。マリアの選んだ「よい方」とはこれらのことだったのかもしれません。
これをマルタが聞いてしまったなら「思い悩み、心乱れ」てしまうのは当た

り前です。

> **必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。**ルカ 10:42

十字架にかかり、死んで三日後に復活する、これがここでイエスが語る必要な「ただ一つ」のことだとすれば、マリアが選んだ「良い方」とは抽象的な言い方になりますが、それはマリア自身の十字架です。

> **わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。**
>
> マルコ 8:34b

マルタはマリアの十字架を取り上げることはできません。知ってしまったことでマルタもマルタ自身の十字架を背負ったことになります。

主役はただお一人、イエスさまだけですが、脇役は何人も必要です。必要なことがただ一つだけだとすれば、主役はただ一人です。何人も主役がいてははなしがややこしくなるだけです。脇役にはそれぞれに重要な役割があります。マリアの役割、マルタの役割、一人ひとりにふさわしい役割が振り分けられている、そんなこともきょうの福音から読み取ることができます。